

2019年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

はじめに

立命館大学コリア研究センターは、2005年に発足して以来、朝鮮半島に焦点を当てつつ日本と東アジア周辺諸国の相互理解と平和創造に資する研究活動に邁進してきた。2018年度からは、近年激化してきた東アジアの葛藤と理解のジレンマを乗り越えるために、葛藤・対立のモメントを最小化しながら、交流と相互理解をいっそう促進する道筋を探り、社会的に方向性を示すことのできる政策志向の研究拠点として活発な学術活動を続けている。

1. 学術研究事業**(1) 国際学術交流企画**

2019年度は、韓国国際交流財団からの支援を受け、京都コリア学コンソーシアムとの共催で「歴史問題からみた日韓関係・日朝関係」を共通テーマに3年ぶりに「第12回次世代研究者フォーラム」(2019年8月3日～5日)を再開した。8月3日には、プレ企画としてシンポジウムを開催し、和田春樹さん、内海愛子さんに講演いただいた。8月4日・5日は若手研究者11人の研究発表を受け、質疑応答と総合討論によって理解を深めることができた。

本学で開催した企画としては、11月2日に韓国の全南大学校5.18研究所と共同して「5.18光州民衆抗争と平和の現代的意義」をテーマに日韓交流学術大会を開催し、本センター運営委員が2本の研究発表と3本の発表に対する討論者を務めた。また、本センターが後援した学術企画としては、5月30日に立命館大学衣笠総合研究機構(東アジア平和教育研究プロジェクト)が主催した国際シンポジウム「東アジア安全保障環境の変化と朝鮮半島の未来」を後援し、本センター運営委員が1本の発表と2本の発表に対する討論者を務めた。

海外で開催された学術企画としては、10月23日・24日に吉林大学において、日中韓国際学術会議「朝鮮半島の変化と北東アジアにおける地域協力」を吉林大学東北アジア研究院(中国)、東國大学校北韓学研究所と本センターの3機関の主催で開催し、発表、討論を務めた。また10月25日～27日に中国海洋大学(山東省青島市)で開催された統一人文世界フォーラム「3.1 独立運動100周年:抗日独立運動の国際的性格と意味」を建国大学統一人文学研究団、中国海洋大学韓国研究所、延辺大学朝鮮半島研究センター、朝鮮大学校朝鮮問題研究センターと本センターの5機関の主催で開催した。

(2) RiCKS 月例研究会

RiCKS 月例研究会は前センター発足時からセンターの核心的な事業として取り組んできた企画であり、主として、①博士学位取得前後の気鋭の若手研究者、②関西地域に滞在中の海外研究者に発表を依頼してきた。2019年度は第104回から第110回まで、ほぼ毎月、計7回開催することができた。

(3) 立命館土曜講座

2019年10月の土曜講座をコリア研究センターが担当し、「日韓の歴史問題を考える」と題する連続講座を開講した。いわゆる「徴用工裁判」と朝鮮人戦時動員問題に正面から取り組み、多くの市民の出席を得て、概ね共感いただくことができた。

2. 映画上映会

11月2日に全南大学校5.18研究所との共催で、本学平井嘉一郎記念図書館シアタールームにおいて、光州民衆抗争40周年のプレ企画としてドキュメンタリー映画「ヒンツペーター・ストーリー」の上映会を開催した。

3. 若手人材育成

すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	文 京洙	国際関係学部	特任教授
運営委員	庵途 由香	文学部	教授
	石川 亮太	経営学部	教授
	勝村 誠	政策科学部	教授
	金丸 裕一	経済学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	宋 基燦	映像学部	准教授
	高屋 和子	経済学部	教授
	鄭 雅英	経営学部	教授
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	総田 芳憲	立命館アジア太平洋大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)			
学内の若手研究者	専門研究員・研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員(PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	林 茂澤	文学部	非常勤講師
	沈 熙燦	文学部	授業担当講師
	宋 基栄	経営学部	授業担当講師
	宋 隠営	文学部	非常勤講師
客員協力研究員	新里 瑠璃子	京都女子大学	非常勤講師
	徐 潤雅	駐大阪韓国文化院世宗学堂	韓国語講師
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表

	吉川 絢子	京都大学	非常勤講師
	林 茂澤	立命館大学	非常勤講師
	尹 健次	—	—
	金 東僊	高麗大学	講師
	波佐場 清	—	—
	許 燕華	大阪労災看護専門学校	非常勤講師
	梁 京姫	立命館大学	授業担当講師
	沈 熙燦	円光大学校 東北アジア人文社会研究所	研究教授
	戸塚 悦郎	—	弁護士
	梁 仁實	岩手大学	准教授
	金 鍾泰	湖西大学校	教授
	金 建佑	大田大学校(韓国)	副教授
	閔 智焄	—	—
	青柳 純一	コリア文庫	共同代表
	申 東洙	京都市立日吉ヶ丘高等学校	非常勤講師
	川瀬 俊治	—	フリージャーナリスト
	宇都宮 めぐみ		翻訳・通訳業(フリー)
	金 賢泰	特定非営利活動法人 コリア NGO センター	職員(対外協力担当)
	坂本 悠一	—	—
	森 類臣	立命館大学	非常勤講師
	宋 隱宮	立命館大学	非常勤講師
	閔 スラ	関西大学東西学術研究所	非常勤研究員
	高 恩美	東亜大学校 石堂学術院	特別研究員
	洪 ジョンウン	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	裴 始美	立命館大学	非常勤講師
	三上 聡太	大阪成蹊短期大学	非常勤講師
	宋 基栄	立命館大学	授業担当講師
	李 孝仁	慶熙大学校	教授
	張 恵英	立命館大学	授業担当講師
	徐 勝	又石大学校	碩座教授
	塚崎 昌之	立命館大学	授業担当講師
	林 仁澤	Hankyoreh Media company	ジャーナリスト
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員	計	52 名	(うち学内の若手研究者 計 0 名)

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2020年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	KIM Wooja	Hate Speech in Asia and Europe: Beyond Hate and Fear	共著	2020年3月	Routledge	Myungkoo Kang, Marie-Orange Rivé-Lasan, Wooja Kim, Philippa Hall eds.	編集のみ
2	松本克美	「尊厳ある社会」に向けた法の貢献—社会法とジェンダー法の協働	共著	2019年10月	旬報社	島田陽一・米津孝司・菅野淑子編	pp.421-450
3	松本克美	法と心理学への招待	共著	2020年1月	有斐閣	サトウタツヤ・若林宏輔・指宿信・松本克美・廣井亮一	pp.151-193

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	庵途由香	京都の中の朝鮮—西ノ京の焼肉屋から見た京都の国際交流	単著	2020年2月	立命館大学人文科学研究紀要、122	—	pp.229-242	無
2	庵途由香	朝鮮人強制動員の実態と「徴用工判決」	単著	2020年1月	歴史学研究、No.992	—	pp.46-54	無
3	Yuka Anzako	War Museums in the Netherlands	単著	2019年12月	Public History & Museum, vol.2	—	pp.38-67	無
4	庵途由香	オランダの戦争博物館（原題：네덜란드의 전쟁박물관）	単著	2019年12月	現代史と博物館（현대사와 박물관）、2号	—	pp.38-54	有
5	庵途由香	韓国大法院「元徴用工」判決の歴史的意義	単著	2019年10月	新しい歴史学のために、No.295	—	pp.56-60	無
6	勝村誠	韓日関係と韓国学関連研究センターの現状と活動そして課題	単著	2019年6月	圓光大学校韓中関係研究院・東北アジア人文社会研究所編『海外韓国学研究的現況と展望：モンゴル・中国・ロシア・日本』	無	pp.43-88	有
7	勝村誠	日本からみた安重根と東洋平和論	単著	2019年10月	3・1運動ならびに大韓民国臨時政府樹立100周年記念韓中日学術会議「安重根の東洋平和論の再照明：韓中日未来共同体構想」発表論文集	無	pp.145-178	無
8	勝村誠	民族自決主義と3・1独立運動に対する日本社会の認識変化の研究：新聞と雑誌の論説を中心に	単著	2019年10月	2019 統一人文学世界フォーラム「3・1運動100周年：抗日独立運動の国際的性格と意味」発表論文集	無	—	無
9	松本克美	民法724条の「不法行為の時」の解釈基準と「損害の性質」に着目した不法行為類型	単著	2019年12月	立命館大学法学会、立命館法学、385号	—	pp.1274-1308	無
10	松本克美	人格的利益侵害の損害賠償請求権の消滅時効—ドイツ法・韓国法との比較法的検討を踏まえて	単著	2020年3月	立命館大学法学会、立命館法学、387・388号	—	pp.2193-2224	無
11	文京洙	日韓関係、第3の転機か	単著	2019年6月	在日総合誌・抗路	—	pp.44-48	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	庵途由香	朝鮮人強制動員の実態と「徴用工判決」	2020年1月	歴研シンポジウム「日韓の歴史葛藤をほどく—「徴用工」問題から考える—、早稲田大学文学部	無
2	庵途由香	戦場における強制動員：朝鮮人志願兵が経験したアジ	2019年11月	国立順天大学校人文学院国際学術会議「戦争と文化企画：アジア太平洋戦争と韓国戦争」、韓国・国立順天大学校	無

		ア・太平洋戦争			
3	庵途由香	朝鮮人強制動員問題の歴史 的意味	2019年7月26	朝鮮半島研究国際学術会議 2019、中国・延辺大学	無
4	総田芳憲	Japan's Security Policy under the Abe Administration	2019年5月	“Emerging Political and Economic Issues in Northeast Asia,” held at Inha University (Incheon, South Korea), jointly hosted by the Center for International Studies (CIS) of Inha University, the Development of International Law in Asia- Korea (DILA-KOREA), and the School of International Relations and Public Administration (SIRPA) of National University of Mongolia (NUM)	無
5	総田芳憲	韓国・北朝鮮への日本の『価 値観』外交	2019年5月	北東アジア学会 2019 西日本地域研究会・シンポジウム、立命 館アジア太平洋大学	無
6	総田芳憲	日米韓協力についての一考 察	2019年5月	立命館東アジア平和協力研究着手記念国際シンポジウム「東ア ジア安保環境の変化と朝鮮半島の未来」、立命館大学 (衣笠)	無
7	勝村誠	民族自決主義に対する日本 国内の認識の変化	2019年7月	第8回 歴史 NGO 世界大会	無
8	勝村誠	安重根義士に対する日本に おける評価	2029年2月	独立記念館 韓国民族独立運動史研究所 第362 回月例研究発 表会	無
9	김우자 KIM Wooja	1960 년대의 재일한국인 학생운동과 “조국” 의 위치: 당사자 인터뷰를 중심으로	2019年8月	제 14 차 코리아학국제 학술 토론회	無
10	金友子	朴ソンウン報告「チョ・ソ ニ小説『三人の女』に表象 された抗日社会主義者女性 の叙事」に対するコメント	2019年10月	統一人文学世界フォーラム 2019 「3.1 運動 100 周年：抗日独 立運動の国際的性格と意味」	無
11	김우자 (金友子)	재일 조선인 여성에 대한 일상적이고 미묘한 차별	2019年11月	연세대학교 국학연구원 비교사회문화연구소 콜로키움 " '디아스포라'의 비대칭성 - 테레사 학경 차의 미학과 재일조선인여성의 말", Yonsei University, Korea	장한길 (Chicago University)
12	高屋和子	「中国の対外投資と貸付- “CHINA’S OVERSEAS LENDING” Sebastian Horn et.al., NBER Working Paper 26050, July 2019 をもとに」	2020年1月	立命館大学東アジア平和協力研究センター・北東アジア学会 共同研究会 場所：立命館大学末川記念会館第3会議室	無
13	松本克美	日本の性暴力被害と消滅時 効起算点：釧路事件を中心 として	2019年5月	日韓フォーラム・性暴力被害者の損害賠償請求権と消滅時効、 ソウル市、国会 24 議員会館	キム・ジェヒ、チ ェ・ソネ、ソ・ジ ュンヒ他
14	松本克美	人格的利益侵害と民事消滅 時効—修復的正義・司法の 観点から	2019年6月	R3-GIRO「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・ 社会システムの構築」プロジェクト, 第45回 修復的司法セミ ナー、立命館大学朱雀キャンパス	吉田容子、吉川 絢子
15	松本克美	韓国調査報告 — 性暴 力・児童期性虐待をめぐる 裁判・法改正動向を中心に・ 調査概要	2019年11月	R-GIRO「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・ 社会システムの構築」プロジェクト, 第49回修復的司法セミナ ー, 立命館大学	無
16	文京洙	“HARUKO”の半生からみ る在日済州人女性の労働と 生活 (韓国語)	2019年9月	済州女性家族研究院開院 5 周年記念 2019 済州女性国際フ ォーラム 主催：済州女性家族研究院 開催場所：済州漢拏大 学校	無
17	文京洙	四・三と在日済州人再論： 分断と排除の論理を超えて (韓国語)	2019年10月	済州四・三研究所創立 30 周年記念学術大会 主催 済州四・ 三研究所 開催場所：済州道アスターホテル	無
18	文京洙	ポスト冷戦期の日韓関係— 過去清算と反動の相克	2019年12月	코리아NGOセンター設立 15 周年シンポジウム：ポスト冷戦 期の日韓関係 その打開の道をさぐる 主催 코리아 NGO セ ンター (大阪たかつガーデン)	無
19	文京洙	済州島四・三事件；過去清 算と和解をめぐる市民社 会、行政、国家イデオロギ ー	2020年2月	歴史問題の和解を考えるシンポジウム 科研費・新領域「市民 による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての 研究」代表・外村大 (東大大学院総合文化研究科) 開催場所 東大駒場キャンパス	無

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	Asia and Japan: Perspectives of History	大阪茨木キャン パス	2020年2月	35名	

	An International Symposium Organized by Asia-Japan Research Institute Ritsumeikan University				
2	第12回次世代フォーラム「歴史問題からみた日韓・日朝関係」	衣笠キャンパス	2019年8月	100名	京都コリア学コンソーシアム
3	日中韓国際学術会議「朝鮮半島の変化と北東アジアにおける地域協力」	吉林大学	2019年10月	100名	東国大学北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院
4	2019年統一人文学フォーラム「3.1運動100周年：抗日独立運動の国際的性格と意味」	中国南開大学	2019年10月	100名	延辺大学、中国南開大学、中国海洋大学韓国研究所、カザフスタン国立大学韓国学研究所、朝鮮大学朝鮮問題研究センター、
5	全南大5.18研究所・立命館大学・コリア研究センター共同日韓交流学術大会	衣笠キャンパス	2019年11月	30名	全南大5.18研究所
6	第104回月例研究会「韓国現代詩人・金鍾泰の詩とその世界：日本語訳詩集『腹話術師』の朗読と解釈」	衣笠キャンパス	2019年4月	30名	
7	第105回月例研究会「北朝鮮におけるスポーツの政治的利用に関する研究—自主路線の公式宣言期を中心に—」	衣笠キャンパス	2019年5月	30名	
8	第106回月例研究会「植民地朝鮮の離婚請求訴訟における「慣習」の適用問題—1910年代～1920年代初め、京城地方法院判決の分析を中心に—」	衣笠キャンパス	2019年6月	30名	
9	第108回月例研究会「朝鮮における旅券制度について」	衣笠キャンパス	2019年10月	30名	
10	第109回月例研究会「強制動員をめぐる韓国 大法院 2018年10月30日判決の意義と課題：1965年日韓請求権協定の意義と限界」	衣笠キャンパス	2019年11月	30名	
11	第110回月例研究会「『ろくそく革命』は何が革命的なのか」	衣笠キャンパス	2019年12月	30名	
12	第111回月例研究会「『徴用工』問題を大阪の朝鮮人強制連行から考える」	衣笠キャンパス	2020年1月	30名	
13	特別研究会「日韓関係の「法化」—二つの「正義」の狭間で」	衣笠キャンパス	2019年7月	30名	国際関係学部
14	特別研究会「グローバル時代における韓国学の現況と課題：ドイツとヨーロッパを中心に」	衣笠キャンパス	2019年10月	30名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	総田芳憲	「日韓関係の現状について」	憲法9条キャラバン大分主催「日韓交流会」での報告	2019年10月26日
2	総田芳憲	「朝鮮半島情勢と日本外交の問題点」	平和憲法を守ろう！宇佐市民の会主催「このままでよいのか？日韓関係～北朝鮮問題も見据えて～学習会」での講演、	2019年11月16日
3	総田芳憲	「日本は朝鮮半島とどう向き合うべきか」	「韓日・朝日 仲良くしようプロジェクト/2019 in 徳島」実行委員会、徳島大学国際政治学研究室主催「日本は朝鮮半島とどう向き合うべきか」での講演	2019年12月22日
4	金友子	2019年度立命館大学大学院先端総合学術研究科パートナーシップ委員会企画講演「研究の場におけるマイクロアグレッションを考える」	立命館大学大学院先端総合学術研究科パートナーシップ委員会主催、立命館大学衣笠キャンパス図書館カンファレンスホール	2020年2月21日
5	金友子	「『人権文化の確立』に向けて～外国人差別問題を考える～」	京都府立亀岡高等学校 教職員人権教育研修会（京都府・亀岡市）	2019年11月27日
6	金友子	「マイクロアグレッション—日常に潜む見えない差別・排除」	京都府立朱雀高等学校通信制 人権学習会（京都府・京都市）	2019年11月17日
7	金友子	「マイクロアグレッションとは—日常に潜む見えない差別・排除」	京都府立田辺高等学校、第3回教職員人権教育研修、京都府立田辺高校（京都府京田辺市）	2019年11月6日

